

今回の Sakura Time 通信は とにかく外に出て！聞いてきて！やってみて！ 特集です！

本校の SakuraTime アドバイザーである菊池さんが、2学期に来ていただいたときに、生成 AI を使ってみました。どうでしたか？自分の立てた「問い」を入れてみたら、あっさり答えが出てきてしまった・・・、解決できちゃった（汗）って思いましたか？ほんとかな？よし、岡部も入れて見るぞ～。

「弘前市のりんごの販売力を強化するためには、どうすればいいか。」

すぐ教えてくれました！さすが生成 AI!

「以下の3つのポイントを押さえることが大切です。」

- 1、品質の向上 → 栽培技術の向上、衛生管理、品種改良や新たな品種開発
- 2、ブランド力の強化 → ブランドイメージを明確に、プロモーション活動に力を
- 3、販売チャネルの拡大 → オンライン販売の強化、海外への輸出拡大

(省略していますがこの内容です)



いや、それはみんな思いつくのよ。そういう一般的なことじゃなくて、もっとがつんと効果が出る具体的な方法が知りたいのよ・・・。どのような品種改良を行えばいいのか？とか、効果のあるプロモーション活動は？とか、どの国への輸出を強化すればいいのか？とか、オンライン販売はどの客層をターゲットにすればいいのか？とかとか・・・。

探究活動はここを深めることなんです。そのためには『実際にその課題に関わっている人に会って現状を把握する！』『自分の立てた問い・仮説について、有識者に意見をもらってきちんと検証する！実際にやってみる！』。例えばこのりんごの販売力の課題では、りんご農家や県・市、農林総合研究所や市場の方から、リアルな現状を聞かないと、課題の本質に迫れないですよ。こうして**一次情報を得る**ことが、探究をマニアックに深めるために必要不可欠なことなんです。

一次情報とは、自身が直接体験、または調査や実験をすることで得られた情報。自身の行動を主因として取得した独自の情報であり、経験から得られた情報のため、信頼性が高い。

外に出てやってみる！の例

～2年 村田光さんの校外活動～

村田さんは、身近な自然とどのように関わっていくべきかを課題にして、探究活動を行っています。そのために、都市緑地や自然環境保護等を目的としたボランティア活動(みどりフレンズ)、野鳥観察と保護を目的としたバードウォッチングに参加し、実際に自然と関わることで探究を深めています。また、次のページで紹介する紫波町視察にも参加し、自然だけでなく、多くの視点や考え方を探究に活かしています。

実際に活動しました！
実行日時: 8/16、17
9:30～11:30
場所: 植物園
活動内容:
開花時期が過ぎた
アジサイの間引き作業

- 伸び過ぎると、来年花が咲かない！
- 根本から切ってもOK



実際に紫波町に行ってみました！ 街全体が本気で探究していて、 ほんとにいい街になっていた！

環境・SDGs・リノベーション・まちづくりに関心がある生徒を対象に、弘前大学大学院地域社会研究科の先生と紫波町を視察する研修を、10月28～29日（土・日）に行い、2年生16名が参加しました。

紫波町は、先人たちが築いてきたことを尊重しつつ、時代と地域の変化に対応しながら地域課題の解決を図る「まちの再編集」の取り組みが、全国的に有名なところだ。

ここでは、実際に紫波町の方々がどのような課題をもって、実際に動いたのかその一部を紹介します。探究を深める大きなヒントになりますよ！



紫波町の課題



課題解決策 ～紫波町の探究(ほんの一部)～

【課題①】への挑戦

役場の移転による商店街の存続危機!そこで

- ①空店舗のリノベーションによるまちづくり。新たな店舗が増えてきた(古着屋・理容店・洋菓子店・カフェ)!
- ②大学生の実践型インターンシップで新規事業を創出。4つの酒蔵があり、たくさんのフルーツが収穫される紫波町の地域資源を活用し、「酒粕生クリームフルーツサンド」を商店街飲食店と開発。これが大ヒット!
- ③紫波町のオモシロ情報発信集団「しわりり」設立。デジタルでの情報発信、しわりりカフェを開店し、コミュニティの場を作る。

【課題②】のコンセプト

- 『住民がチャレンジするまちづくり』
- ①公民連携
民間が建物を整備し、町が公共部分を買取り。逆にその民間に、敷地を貸し付け。地代と建物部分の固定資産税を得る「稼ぐインフラ」となった。
 - ②安心して子育てができるエリアに
紫波町は盛岡市のベッドタウンである。150名が通う保育園、小児科、病児保育施設を誘致。そこにはパン屋、アウトドアショップ、英会話スクール、スポーツジムなども入居。
 - ③町の間伐材をチップ化
エネルギーステーションを作り、町の間伐材を燃料に地域内の熱を供給。

【課題③】の工夫

温浴施設「ひづめゆ」オープン!さらに町のりんごを用いたシードル醸造所、コンビニ、レストランを複合し、多世代の憩いの場を作り上げた。また、ひづめゆから日詰商店街の飲食店に客が足を運ぶよう、あえて飲食のメニューを減らした。



←ひづめゆ
入りたかった……。

商店街で講義→

地元住民の「よくしたい!」想いが、熱かった!

